



世界威人傳

Vol.2 金正恩

「国」の成立要件は大雑把に言って国土・国民・統治の三つだそうだ。他の誰からもイチャモンがつかない土地に人間が住んでいて（ネコじゃ駄目らしい）、あるルールで治められていれば国になるという。そして「国」として成立すると、他の誰からも統治について指図されない権利やら、攻め込まれたら実力で撃退する暴力行為が公然と認められる。

国の持つ諸権利は、国の規模・経済力の大小、統治の理念とは無関係で、小国でも制限されることはない。統治の根本原理が何であっても構わない。法律でも哲学でも宗教でも、星占いだってよいのだ。民主主義や人道主義でなければいかん、という決まりはない。

そんな素晴らしいひとつの国の指導者が金正恩氏（以下キムさん）。キムさんは朝鮮民主主義人民共和国の指導者であり、現実に統治している。キムさんを感情的に批判しても無駄だ。彼はタフである。それより彼の視線で世界を捉え直せば新たな方向性が見えるかもしれない。

ひとつの国は他の国と同格である。ナウルのように国土が小さく国力が弱くても国連ではロシアと同じ1票を持つ。つまりキムさんは不動産屋のトランプと同格であり、アメリカ合衆国と朝鮮民主主義共和国は同格なのだ。多くの人がこれを忘れてるように思える。しかしキムさんは決して忘れはしない。

言わずもがなだが両者が同格である証拠に、アメリカ（正しくは連合国）とキムさんの国は戦争状態にある。国際法上、今はたまたま休戦しているだけ。もしアメリカ合衆国がキムさんの国を国家として認めていなければ戦争にはならない。戦争とは国どうしの喧嘩だから。

今、ロシアや中国を除いた多くの国では、キ

ムさんの国に対して核兵器を放棄しろ、ロケットを飛ばすななど、様々な注文をつけている。その上、もし言うことを聞かなければ商売相手にしてやらないぞ、と脅しをかけている。注文をつけるのも脅すのも国の権利だから、これまた正当なことではある。

しかし翻ってみれば、国としてのキムさんが核兵器を作ろうと売春宿を開こうと、それは自由な権利だ。それらを規制する国際的な法律は無い。さらに、すべての国が国際平和を目指さねばならぬという取り決めも無い。現実の国際社会とは、見るも無残な無法地帯である。そして無法地帯を牽引しているのが、これまたアメリカ合衆国なのだからキムさんも心穏やかではいられまい。最近ではトマホークをシリアにぶち込み、パキスタン政府に無断で夜襲をかけてビンラディンを殺し、古くはカダフィ大佐の寝室をミサイルで粉々にするなど、国際法など眼中に無い素朴なカウボーイを信じる方が無理。

キムさんとアメリカ合衆国は法的に戦争関係にある。思慮皆無なトランプが、いつなんどきピョンヤンを空爆し嘉手納から海兵隊を殴り込ませてもおかしくはない。休戦など、一発の銃弾で簡単に破られる。キムさんが防衛力と抑止力を持つのは一国の統治者として当然のことであり、これを認めて前提としない限り、国対国の交渉など始まるものではない。キムさんの国も国際法上、立派な「国」なのだ。

まず朝鮮戦争を終戦にしたらどうか。その上でアメリカ合衆国とキムさんの国、**双方で核兵器とミサイルを全廃すればよい**。トランプだけ核を持ち続けるなど、キムさんは許すはずがない。どちらも同じ「一国」、立場は対等なのだから。この論理、トランプには理解不能かも。